

芸術、日本研究、日本語教育分野それぞれで日本と海外をつなぐ
2016年度「国際交流基金賞」受賞者を決定
「現代美術家 蔡國強氏」、「ハーバード大学教授 スーザン・J・ファー氏」、
「ブラジル日本語センター (CBLJ)」

世界の全地域において総合的に国際文化交流事業を実施する日本で唯一の専門機関である国際交流基金(ジャパンファウンデーション)は、1973年以降毎年、学術、芸術などのさまざまな文化活動を通じて、日本と海外の相互理解促進に長年にわたり顕著な貢献のあった個人または団体に対し、「国際交流基金賞」を授与しています。このたび、第44回目の授賞となる2016年度の受賞者が決定しましたのでお知らせします。

<2016年度 受賞者・団体>

- 蔡 國強氏 (現代美術家) 【中国】
- スーザン・J・ファー氏 (ハーバード大学教授/同大学ウェザーヘッド国際問題研究所日米関係プログラム所長) 【米国】
- ブラジル日本語センター (CBLJ) 【ブラジル】

□過去の受賞者(敬称略)

- 2015年度:** 王 勇(浙江工商大学東亜研究院院長/教授) [中国]/ 富田 勲(作曲家) [日本]/ シビウ国際演劇祭 [ルーマニア]
- 2014年度:** 柳家 さん喬(落語家) [日本]/ ピーター・ドライズデール(オーストラリア国立大学名誉教授) [オーストラリア]/ モスクワ国立大学付属アジア・アフリカ諸国大学日本語学科 [ロシア]
- 2013年度:** 入江 昭(ハーバード大学名誉教授) [日本]/ 山海塾 [日本]/ 泰日経済技術振興協会 [タイ]
- 2012年度:** フランス国立東洋言語文化大学 日本語・日本文化学部・大学院 [フランス]/ 村上 春樹 作家・翻訳家 [日本]/ アイリーン・ヒラノ・イノウエ 米日カウンスル プレジデント [米国]
- 2011年度:** タンブッコ (パーカッション アンサンブル) [メキシコ]/ カイロ大学文学部日本語日本文学科 [エジプト]/ オギュスタン・ベルク フランス国立社会科学高等研究院退任教授 [フランス]

<国際交流基金について> (URL: <http://www.jpff.go.jp/j/index.html>)

国際交流基金は世界の全地域において、総合的に国際文化交流事業を実施する日本で唯一の専門機関です。1972年に外務省所管の特殊法人として設立され、2003年10月1日に独立行政法人となりました。国内に本部(東京・新宿)と京都支部、2つの付属機関(日本語国際センターおよび関西国際センター)、23か国・24の海外拠点(うち2か所はアジアセンター連絡事務所)を持ち、文化芸術交流、海外における日本語教育および日本研究・知的交流の3つを主要活動分野として、世界の人々と日本の人々の間でお互いの理解を深めるため、さまざまな企画や情報提供を通じて人と人との交流をつくりだしています。

【本件に関するお問い合わせ】

国際交流基金 コミュニケーションセンター 早川、川久保
TEL:03-5369-6075 FAX:03-5369-6044 E-mail:kikinsho@jpf.go.jp

【本件に関する報道関係者お問い合わせ】

国際交流基金賞 広報担当 日本パブリックリレーションズ研究所 妹尾、志村、横田
TEL:03-5368-0911 FAX:03-5269-2390 E-mail:japanfoundation@japan-pri.jp

<2016 年度 国際交流基金賞受賞者・団体について>

◆ 蔡 國強 (現代美術家) 【中国】

Cai Guo-Qiang (Artist) [China]



【授賞理由】

蔡國強氏は、中国で生まれ、日本でアーティストとして開花した世界的美術家である。

「海のシルクロード」ともよばれる東西貿易で栄えた中国福建省泉州に生まれた蔡氏は、1986 年に来日し、火薬を爆発させて制作する「火薬ドローイング」の手法を確立した。自らの故郷の記憶に結びつく「東洋的」な世界観に基づきつつ、本来破壊的で武器にもなる火薬を表現の手段とし、国内外で多くの展覧会、プロジェクトを行って世界との対話を続けてきた。

1995 年、ニューヨークに移住後、活動を世界各地に広げ、1999 年にはヴェネチア・ビエンナーレ金獅子賞を受賞。2008 年北京オリンピック・パラリンピック開会式・閉会式の視覚特効芸術監督を務めた。1980 年代末から続く「外星人のためのプロジェクト」では、宇宙から人類を見ることで地上の壁や対立を軽々と乗り越える試みを提示した。近年は欧米はもとよりエジプト、

ブラジル、カタール、オーストラリアなどに活動を広げ、各地でその場所の歴史を遡り、現地の人々と協働し、宇宙や自然を題材に、大規模プロジェクトを実現してきた。

日本では 2011 年東日本大震災後、「いわき万本桜」プロジェクトの支援を続け、越後妻有里山現代美術館企画展にも参加した。2015 年には横浜美術館での大規模な個展「帰去来」において色彩を用いた「火薬絵画」を発表。横浜の学生、市民と共に日本の自然を題材にした大がかりな作品を制作した。

蔡氏のこのような作家としての取り組みそのものが、異なる地域、宗教、言語の人々をつなぎ合わせる国際交流の実践である。昨年の日本での活動は、その長年の成果を日本に持ち帰り、再び世界の多様性と連続性に気づかせる機会を提供するものであった。このように長年にわたり国際相互理解の促進に大いに貢献されてきた蔡氏の業績は特筆すべきものであり、今後のさらなる活躍を期待し、国際交流基金賞を授与する。

【略歴】

1957 年中国福建省泉州生まれ。1981 年～1985 年、上海演劇大学美術学部に在籍。1986 年～1995 年の日本滞在中に、実験を重ねて火薬の爆発による絵画を発展させ、大規模で独創的な手法による作品世界を確立させた。2008 年に北京オリンピック閉会式では花火を用いた壮大なパフォーマンスを行った。同年広島で行った「黒い花火：広島のためのプロジェクト」など、日本での展示も多い。1999 年ヴェネチア・ビエンナーレ金獅子賞など数多くの賞を受賞。1995 年以降はニューヨークを拠点に活動している。

【写真】

蔡 國強氏近影

Cai Guo-Qiang, Qatar, 2016.

Photo by Wen-You Cai, courtesy Cai Studio

協力：日本航空

◆ スーザン・J・ファー

(ハーバード大学教授／同大学ウェザーヘッド国際問題研究所日米関係プログラム所長) 【米国】
Susan J. Pharr (Edwin O. Reischauer Professor of Japanese Politics and Director, Program on
U.S.-Japan Relations, Weatherhead Center for International Affairs, Harvard University) [U.S.A.]



【授賞理由】

スーザン・J・ファー氏は、アメリカにおける日本研究を長年にわたり牽引してきた。1975年にコロンビア大学で政治学博士号を取得後、米国社会科学研究所評議会、ウィスコンシン大学マディソン校、戦略国際問題研究所などを経て、1987年にハーバード大学に迎えられ、1991年にエドウィン・O・ライシャワー記念日本政治学講座教授に就任。1987年以降、同大学ウェザーヘッド国際問題研究所日米関係プログラム所長を務めるほか、2011年までの7年間、ライシャワー日本研究所所長を兼務した。

女性の参政権や両性の平等の原則を掲げた革新的な日本国憲法の制定過程に関心を抱き、戦後日本における女性の政治参加を調査したのが日本専門家としての同氏の出発点である。以後、先進諸国における比較政治学、日本と東アジアにおける民主化と社会変容、市民社会と非営利組織、政治倫理と汚職、環境をめぐる政治学、政治におけるメディアの役割、女性の活躍とリーダーシップへと研究対象を広げてきた。いずれも

今日、重みを一層増しているテーマであり、その先見性と比較政治学の視点に基づいた日本政治への洞察は、多方面から高く評価されている。

ハーバード大学では、これまで約2000件のセミナーやシンポジウムを実施し、約600人のフェローの研究を支援してきた。その多くが現在、日本や米国をはじめ、世界各国の学界、メディア、財界、官界、政界、市民社会などで指導的立場にある。

また、日米友好基金やアジア財団の理事、日米文化教育交流会議(CULCON)委員、マンスフィールド財団「日米次世代パブリック・インテレクチュアル・ネットワーク事業」の諮問委員等を務め、日米間の知的交流の深化のために尽力してきた。

ファー氏のバランス感覚に富んだフェアな日本理解の姿勢は、柔和で誠実な人柄とともに敬意を集めている。このように日米を中心とした国際相互理解の増進に長年にわたり顕著な貢献があり、その業績は国際交流基金賞にふさわしい。

【略歴】

1944年生まれ。1975年コロンビア大学にて政治学の博士号を取得。1987年ハーバード大学に迎えられ、1991年エドウィン・O・ライシャワー記念日本政治学講座教授に就任。1987年以降、同大学ウェザーヘッド国際問題研究所日米関係プログラム所長を務めるほか、2004～2011年、同大学ライシャワー日本研究所所長を務めた。2008年、旭日中綬賞を受賞。『日本の女性活動家』(1981年)、*Losing Face: Status Politics in Japan*(1990年)ほか著書多数。日米文化教育交流会議(CULCON)の委員等を務め、国際相互理解の増進に大きな貢献を果たした。

【写真】

スーザン・J・ファー氏近影

協力：日本航空

◆ **ブラジル日本語センター (CBLJ) 【ブラジル】**
Centro Brasileiro de Língua Japonesa (CBLJ) [Brazil]



【授賞理由】

「お餅つき、餅のごはんがとんでくる」
 これは、ブラジルの 9 歳女兒の日本語学習者の俳句である。

ブラジルの日本語教育は、1908 年の移民開始以来、日系人子弟向けの継承語教育として発展してきた。近年アニメなどのポップカルチャーに魅了された非日系人向けの外国語教育の需要も高まっている。しかし、学習者には依然として幼少児を含む初等・中等

の子供たちが多く、正規の学校教育以外の機関(日系人が経営する日本語学校)で学んでいる学習者が 7 割近くを占める。

ブラジル日本語センター(CBLJ)は、このようなブラジルの日本語教育事情を背景に、1985 年日本語普及センターとしてサンパウロに設立され、日本語教師養成、教材・教授法の開発研究、国際交流を通して、延べ 1 千名を超える日本語教師の育成、毎年約 2 万人の学習者を支援してきた(2003 年ブラジル日本語センターと改称)。

CBLJ による教師支援は、子供のための独自の教材開発、教員養成、中南米各国の教員のための研修など、ニーズに応じた多種多様なプログラムが用意されている。

学習者支援では、「硬筆、書道、絵画、マンガ・アニメ、作文」など広範囲のジャンルを含む生徒作品コンクール、子供日本語テストなど、年少者が参加しやすいプログラムを多く提供している。さらに、日本語の実践を目的とした学習者同士の交流「ふれあいセミナー」や日本語・日本文化体験を目的とした「ふれあい日本の旅」など意欲的な活動を展開し、国際友好親善に努めている。

CBLJ の活動はブラジルにとどまらず、教員養成や学習支援のプログラムを通して、ペルー、ボリビア、パラグアイなどブラジル同様に日系人の学習人口が多いラテンアメリカ諸国における日本語教育の中核的役割を果たしている。このように、CBLJ は 30 年以上の長きにわたり日本語教育を通じた国際相互理解の促進に貢献してきており、その業績は国際交流基金賞にふさわしい。

【写真】

ブラジル日本語センターで毎年開催されている「全伯日本語教師研修会」の様相

【本件に関するお問い合わせ】

国際交流基金 コミュニケーションセンター 早川、川久保
 TEL:03-5369-6075 FAX:03-5369-6044 E-mail:kikinsho@jpf.go.jp

【本件に関する報道関係者お問い合わせ】

国際交流基金賞 広報担当 日本パブリックリレーションズ研究所 妹尾、志村、横田
 TEL:03-5368-0911 FAX: 03-5269-2390 E-mail:japanfoundation@japan-pri.jp